

LUMIÈRE

SAXOPHONE ENSEMBLE

第5回定期演奏会



2022.5.7 **土** 開演18:30
開場18:00

古賀政男
音楽博物館 けやきホール

アンケートにご協力ください

*所要時間2分程度



公式Webサイト



公式YouTubeチャンネル

[主催]リュミエール・サクソフォン・アンサンブル [後援]日本サクソフォーン協会
[協賛]株式会社ダク(管楽器専門店ダク) | 株式会社ドルチェ楽器 ドルチェ楽器管楽器アヴェニュー東京店
株式会社ノナカ・ミュージックハウス

PROGRAM

J.バーンズ(編曲：山本 真幸)

交響的序曲

Symphonic Overture／James Barnes

J.ヴァン・デル・ロースト(編曲：飯塚 恭平)

カンタベリー・コラール

Canterbury Chorale／Jan Van der Roost

瀧口 大弥

百物語(委嘱作品)

The Last Candle／Daiya Hamaguchi

休 憩

J.S.バッハ(編曲：飯塚 恭平)

トッカータとフーガ ニ短調 BWV565

Toccata und Fuge in d-moll BWV565／Johann Sebastian Bach

J.ブラームス(編曲：山本 真幸)

シューマンの主題による変奏曲 Op.23

Variationen über ein Thema von Schumann Es-Dur Op.23／Johannes Brahms

R.シュトラウス(編曲：瀧口 大弥)

歌劇「サロメ」より 7つのヴェールの踊り

Tanz der sieben Schleie～Salome～／Richard Strauss

PROGRAM NOTE

交響的序曲／J.バーンズ(編曲：山本 真幸)

本演奏会の第1部は吹奏楽作品2曲と世界初演の新曲をお届けする。オープニングを飾るこの曲は、アメリカの作曲家であるジェイムズ・バーンズ(1949～)によって作曲された。アメリカ空軍ワシントンD.C.バンドのために1900年～1901年に書かれ、数多くの吹奏楽曲を手掛けるバーンズによって楽器の持つ個性を存分に引き出された作品である。

楽曲の構成は急-緩-急の3部構成で、冒頭では華々しいファンファーレに続き、爽快なオーボエのメロディが登場する。中間部ではサクソフォンを演奏する人は一度は耳にしたことがあるであろう、アルトサクソフォンのソロによって非常に美しいメロディが演奏される。中間部が終わると、再び木管楽器の軽快な連符と金管楽器のリズミックな旋律によって華々しく曲が終わる。

木管楽器の軽やかな指回しや、金管楽器のファンファーレ、そして打楽器のリズム感が巧みに使われた本楽曲を、今回サクソフォンだけで演奏するにあたり山本真幸氏に編曲を委嘱した。2つのカルテットが左右に分かれて演奏することにより、木管・金管の役割や、打楽器のチャイムで演奏するベルトーンが左右から聴こえるように書かれている。山本氏のアレンジにも是非注目してお聴きいただきたい。／外崎 遥

カンタベリー・コラール／J.ヴァン・デル・ロースト(編曲：飯塚 恭平)

この楽曲は、作曲者のヤン・ヴァン・デル・ロースト(1956～)が、イギリス南東部にある世界遺産、カンタベリー大聖堂を訪れた際の印象を元にブラスバンド作品として1990年に作曲された。後に吹奏楽版も本人により編曲され、吹奏楽曲の中でも名曲として幅広く愛される楽曲である。コラール(讃美歌、聖歌)の名の通り、暖かく澄み渡るようなメロディーと、繊細かつ壯麗なハーモニーが特徴の優美な曲である。

カンタベリー大聖堂は、イングランド南東部ケンタッキー州のカンタベリーにある約1400年の歴史を誇るイングランド国教会の総本山の大聖堂であり、世界遺産にも登録されている貴重な文化遺産である。

今回のプログラムで取り上げている「トッカータとフーガ」はオルガンのために作曲された楽曲であるが、こちらもまたオルガンのような荘厳な響きを持った楽曲である。それぞれの楽曲はまったく違った表情を持っており、その違いもお楽しみいただきたい。／飯塚 恭平

百物語(委嘱作品)／濱口 大弥

百物語とは古来より伝わる怪談会のスタイルの一つです。仲間内で集まり怪談を互いに100話語り、最後の話を終えると本物の怪異が現れるとしています。

今回の委嘱にあたり学生吹奏楽部でも取り組みやすい内容が良いとの事でしたので、楽章形式で尚且つ物語の想像しやすい題材に設定させて頂きました。曲名に「百」とありますが、楽章は5つに分かれておりそれぞれにテーマ性を持たせています。怪談会ですので仄暗い印象のメロディが多くなっていますが、サクソフォンらしいかっこいい旋律やリズムパターンも随所に盛り込んでみました。楽曲内で使用されるメロディは日本的な音階を多用し、また童歌や日本歌曲の有名な旋律を楽曲中にちりばめています。それぞれの楽章に何の旋律が隠れているか楽しみながらお聴きください。

先の解説で最後には怪異が…と書きましたが、最後の話をした人物が出世した、小判が降ってきたなどの、結果がハッピーエンドになるお話も存在するようです。リュミエール・サクソフォン・アンサンブルの発展を祈ってこの曲を捧げます。／濱口 大弥

トッカータとフーガ ニ短調 BWV565／J.S.バッハ(編曲：飯塚 恭平)

この作品は、バロック音楽の大家でありヨーロッパ音楽の父でもあるヨハン・セバスティアン・バッハ(1685～1750)によって作曲されたオルガン曲である。数多いオルガン作品の中でも特に親しまれている楽曲であり、オルガンだけでなく様々な編成に編曲され、ピアノやヴァイオリン、オーケストラなど様々な形式で演奏されている。冒頭の部分はパロディ化して歌われるほど有名であり、現代では失敗した時のBGM等にも使われている。

題名にある「トッカータ」とは、速い楽句や細かな音形の変化などを伴った即興的な楽曲、「フーガ」とは、一つあるいは複数の主題が次々と模倣、反復されていく楽曲の形式のことである。サクソフォンの重厚な響きがこの楽曲と非常にマッチしており、オルガンとはまた違った管楽器ならではの響きが魅力的である。

小さい頃にパロディ化して歌っていたこの楽曲を、こうして編曲して取り組むこととなり、音楽を勉強していくことで楽曲の魅力に気付くことができると知った曲である。バッハならではの調性感、重厚な響きをお楽しみいただきたい。／飯塚 恭平

シューマンの主題による変奏曲 Op.23／J.ブラームス(編曲：山本 真幸)

ドイツ・ロマン派を代表する作曲家の一人にロベルト・シューマン(1810～1856)がいる。第2部の1曲目に演奏したバッハの楽曲研究を当時から行っており、バッハのテーマを用いた作品も残されている。またシューマンは「音楽新報」という音楽雑誌を創刊し自ら評論文を書き、新たな作曲家たちを紹介した。この曲の作曲者であるヨハネス・ブラームス(1833～1897)も紹介された作曲家の一人であった。ブラームスはシューマンに高く評価され弟子となるが、この頃からシューマンは晩年感染症や精神病を患い病状が回復することはなかった。

今夜演奏する楽曲名にある“シューマンの主題”とは、シューマンの病状が悪化した際に幻聴や幻覚に悩まされ、そこに現れたメンデルスゾーン等有名な作曲家の亡靈が囁いたとされているテーマである。シューマンはこのテーマをすぐに書き留め、後日「主題と変奏変ホ長調」を作曲した。

シューマンの死後もブラームスはシューマンの妻であるクララ・シューマンとその子供たちを精神面や経済面で支え、クララが亡くなるまでその関係が続いていたとされている。

「シューマンの主題による変奏曲 Op.23」は、シューマンが亡くなった7年後の1863年に作曲された2台のピアノのための作品である。この曲はブラームスが当時想いを寄せていたユーリエ・シューマン(シューマンとクララの3女)に捧げられた。しかし、ブラームスの想いが実ることはなかった。テーマと第10変奏からなるこの曲は、リズムや転調による変奏の後、『行進曲風に』と書かれた第10変奏曲で締め括られる。行進曲風と書かれながらも決して軽やかではなく厳かな終曲は、葬送行進曲のような悲しさ、また温かさや祈りのような雰囲気から、シューマンとブラームスの関係が感じられる作品である。／外崎 遥

歌劇「サロメ」より 7つのヴェールの踊り／R.シュトラウス(編曲：濱口 大弥)

本公演の最後にドイツ後期ロマン派の作曲家、リヒャルト・ゲオルク・シュトラウス(1864～1949)の作品を演奏する。リヒャルト・シュトラウスはホルン奏者の父をもち、幼い頃から音楽教育を受けていた。幼い頃から作曲を学んだ彼は20代の頃から次々と名曲を生み出していく。

今回演奏する「サロメ」は1905年に初演された作品で、曲の難しさや官能的でグロテスクな作品であることから検閲の問題があり初演に至るまで容易ではなかったが、結果として大成功を収めた。

サロメの原作はアイルランド出身の劇作家オスカー・ワイルドによって書かれた。(サロメを日本語に初めて訳したのは森鷗外である。)内容は新約聖書をもとにされており、『7つのヴェールの踊り』は最後の第4幕で演奏される。

物語のあらすじは主人公サロメ(リヒャルト・シュトラウスの解釈では16歳の少女)が古井戸に幽閉されている預言者ヨハナーンに魅了されるが、ヨハナーンはサロメの誘惑を相手にしない。一方、サロメは彼女に対し淫靡な眼差しを向ける義父ヘロデ王から褒美を与えるから踊るようせがまれる。サロメは7つのヴェールを身にまとい妖艶な踊りを披露する。そこで演奏される曲が『7つのヴェールの踊り』である。褒美として銀の盆に載せたヨハナーンの首を欲しがるサロメは、生首を受け取り熱烈な接吻をする。それを見ていたヘロデ王は恐ろしさに耐えきれずサロメを殺すよう命じ幕が降りる。

リヒャルト・シュトラウスならではの色彩感とエキゾチックな響きをサクソフォンでお楽しみいただきたい。／外崎 遥

COMPOSER PROFILE

濱口 大弥 Daiya Hamaguchi



香川県出身。高松第一高等学校音楽科、東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。
サラ・ブライトマン、KinKi Kidsなど多くの著名人のバックバンドに参加。演奏家としての活動以外に、アマチュア吹奏楽団での演奏指導や指揮も担当するなど活躍の場を広げる一方、作編曲にも力を注いでいる。
これまでに打楽器を石内聰明、何森博子、小松玲子、菅原淳、杉山智恵子、藤本隆文、松倉利之、森ゆき子の各氏に師事。
室内楽を藤本隆文氏に師事。Twitter: @daiya_per

山本 真幸 Masaki Yamamoto



札幌日本大学高等学校を経て、北海道教育大学岩見沢校音楽文化専攻作曲コース卒業。
同学在学中、主専攻である作曲の他、佐藤淳一氏からサクソフォンを学ぶ。
現在、東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程に在学し、先端技術を用いた作曲技法ならびにP.Boulezなどの研究を行なう。編曲委嘱も多く、特にサクソフォンは作曲者・奏者の視点をもったレパートリーを生み出している。
作曲を南聰、阿部俊祐、田村文生の各氏に師事。

リュミエール・サクソフォン・アンサンブル

Lumière Saxophone Ensemble

2014年、洗足学園音楽大学を卒業した若手サクソフォン奏者によって結成。メンバーには国内外のコンクール入賞者も多く在籍する。

主にクラシックの名曲をサクソフォンアンサンブルに編曲し演奏するスタイルで、ピアノ曲ではショパンやラヴェル、オーケストラ曲ではチャイコフスキイ等数多くのレパートリーを持ち、サクソフォンの可能性を追究すると共に、その名曲たちに新たな魅力を吹き込み続けている。

2015年に都内にて第1回定期演奏会を開催。2016年には国際ソロ・アーティスト主催のコンサートで満員の聴衆を集め音楽誌上でも好評を博す。そして2017年、2019年、2021年に定期演奏会とサロンコン

サートを開催。2020年には、芸術文化活動支援事業「アートにエールを! 東京プロジェクト」に採択され動画配信開始。

2021年には、文化庁 令和2年度第3次補正予算事業「ARTS for the future」の採択を受け、東京、北海道、福島にて初となるツアー公演を開催。

現在、8重奏のレパートリーの開拓を進めると共に、4重奏など様々な編成でのパーティー等での依頼演奏や、カフェやレストランでのライブなどを行なう活動の場を拡げている。

田中 愛希 Aki Tanaka



神奈川県藤沢市出身。洗足学園音楽大学卒業。サクソフォンを服部吉之、室内楽を大和田雅洋、服部吉之の各氏に師事。2017年、クロアチアで行われた第2回国際サクソフォンコンクールにおいてセミファイナリストとなる。第10回横浜国際音楽コンクール第1位。第15回ブルクハルト国際音楽コンクール第3位。第16回大阪国際音楽コンクールエスボワール賞受賞。

現在、演奏活動を中心にサクソフォンや吹奏楽指導にも力を入れている。WISH Wind Orchestra団員。Parero Saxophone Quartet メンバー。

陬波 花梨 Karin Suwa



福島県会津若松市出身。洗足学園音楽大学卒業。サクソフォンを渡辺健司、富岡和男、池上政人、宗貞啓二の各氏に師事。第16回大阪国際音楽コンクール木管楽器部門第3位。第14回ルーマニア国際音楽コンクール管楽器部門第2位。HIBI☆Chazz-K「Jazz Chazz Classic」、NHK BSプレミアム番組挿入歌「オハヨッシャ!」京都アニメーション「響け!ユーフォニアム」記念CD等のレコーディングに参加。日本クラシック音楽コンクール等、審査員としても経験を積む。日本演奏連盟、会津演奏家連盟会員。

岩也 千賀 寛 Chikahiro Iwanari



東京都世田谷区出身。洗足学園音楽大学卒業。サクソフォンを池上政人氏に、室内楽を服部吉之、池上政人氏の各氏に師事。在学時、2012年度、2014年度に前田記念奨学生に認定される。2012年、アメリカ・シカゴで開催された第66回ミッドウェストバンドクリニックに参加、出演。室内楽オーディション合格者による披露演奏会、第17回、第18回室内楽コンサート、第6回、第7回室内楽セレクションコンサートに2013年度より2年連続出演。現在、演奏活動と共にレッスンや吹奏楽指導など後進の育成にも力を入れている。

飯塚 恭平 Kyōhei Iizuka



神奈川県座間市出身。中央大学理工学部を経て、尚美ミュージックカレッジ専門学校を卒業。同校コンセルヴァトールディプロマ科に進学。サクソフォンを大和田雅洋、故原博巳、田村真寛、三宅祐人の各氏に師事。第27回日本クラシック音楽コンクール一般の部3位(最高位)。第4回Kサクソフォンコンクール特別優秀賞受賞。2017年ヤマハ管楽器新人演奏会第21回木管楽器部門に出演。Modétreo Saxophone Ensemble、Vario Saxophone Quartetto、東京サクソフォンオーケストラ各メンバー。

外崎 遥 Haruka Tonozaki



北海道苫小牧市出身。洗足学園音楽大学卒業。東京藝術大学大学院修士課程修了。洗足学園音楽大学在学中2015年度特別選抜演奏者に認定される。サクソフォンを菅原正浩、富岡和男、故原博巳、須川辰也、有村純親、大石将紀、本堂誠、彦坂真一郎の各氏に師事。室内楽を貝沼拓実、二宮和弘、大和田雅洋、須川辰也、本堂誠の各氏に師事。第3回K国際サクソフォンコンクール優秀賞受賞。アニメやドラマなど多数レコーディングに参加、TV番組やCMにも出演。北海道や関東を中心に演奏活動のほか後進の育成にも力を入れている。「プログレッシブ・wind・オーケストラ」コアメンバー。

木村 百花 Momoka Kimura



神奈川県相模原市出身。洗足学園音楽大学卒業。尚美ミュージックカレッジコンセルヴァトールディプロマ科をディプロマを取得し卒業。サクソフォンを原ひとみ、大城正司、室内楽を服部吉之、大和田雅洋、貝沼拓実の各氏に師事。その他にフィリップ・ガイス、ケネス・チェ、ヤン・ルマリエのマスタークラスを受講。第22回室内楽コンサート、サクソフォン四重奏のタベ2019に出演。第22回大阪国際コンクール入選。

現在、クラシックだけに留まらず、ミュージカルなど様々な方面で活動中。

古木 韶 Kyo Furuki



東京都国分寺市出身。洗足学園音楽大学卒業。サクソフォンを坂東邦宣、富岡和男、貝沼拓実各氏に師事。室内楽を服部吉之、大和田雅洋各氏に師事。在学時、室内楽アンサンブル成績優秀者に選抜される。2014年ベルギーにてファンファーレオルケストとして演奏研修に参加。2015年フランスと2018年クロアチアにて開催された“World Saxophone Congress”にジャパンサクソフォンオーケストラの一員として出演。現在、各種コンサートに出演する傍ら、ブライダルミュージックコーディネーターとして活動の場を拡げている。

渡邊 真大 Masahiro Watanabe



福島県二本松市生まれ、東京都中野区出身。佼成学園高等学校を経て、洗足学園音楽大学卒業。サクソフォンを大和田雅洋、黒田裕希の各氏に師事。室内楽を大和田雅洋、貝沼拓実、二宮和弘の各氏に師事。ハバネラサクソフォンアカデミーin JAPANマスタークラスを受講。日本クラシック音楽コンクール全国大会出場。東日本大震災をきっかけとし、福島県、宮城県を中心には復興支援演奏を積極的に行なっている。アニメ「響け!ユーフォニアム」レコーディングメンバー。現在、演奏活動と共に吹奏楽指導やレッスンなど後進の指導にも力を入れている。



P. mauriat®

Go for the Sound

確かなものを心ゆくまで、世界の銘器をあなたのものとへ!



Flutes *Salon & Powell Flutes Japan*

フルートサロン&パウエル・フルート・ジャパン

パウエル・フルート・ジャパンとワールド・フルート・サロンから構成された広々としたゴージャスなサロン。



Brass *Instruments Salon*

金管楽器サロン

トランペット、ホルン、トロンボーン、ユーフォニアム、チューバのオリジナルブランドをはじめとしたトップブランドを一堂に。



Wood Wind *Instruments Salon*

木管楽器サロン

ラグジュアリーで落ち着いた空間。クラリネット、オーボエ、ファゴットの一流ブランドをコレクション。



Saxophones *Salon*

サクソフォーンサロン

クラシカルな雰囲気とモダンなテイストを融合させたスペース。サックス奏者の多彩なミュージックライフをサポート。

Powell Flutes Japan
Artists Salon “Dolce”

100名キャパシティの
豪華なサロン。
スタインウェイピアノ、
録音録画機材など
備えています。



Dolce Tokyo Music Academy

ドルチエ東京ミュージックアカデミー

管楽器の一流演奏家による、一流のレッスンが気楽にお受けいただけます

- ・便利なロケーション
- ・一流の講師陣
- ・ライフスタイルにあったシステム
- ・リスニングレッスン導入
- ・年に一度発表会を開催

入学随時。www.dolce.co.jp 専用電話 03-5909-1770



取り扱いブランド

●木管楽器

Powell	GUO	Backun	Burkart	Altus	Marigaux	W.Schreiber	Selmer Paris
Haynes	F.Lorée	R.Orsi	Yamaha	Flute Masters	Josef	Püchner	B.Crampon
Brannen	R.Dupin	Heckel	Sankyo	Hammig	Rigoutat	Adler	Yanagisawa
Braun	H.Wurlitzer	Leitzinger	Miyazawa	Keefe	Fox	B.Moosmann	J.Keilwerth
Williams	P.Eaton	EXT	Pearl				

●金管楽器

E.Schmid	Throja	EXT	Hans Hoyer	B & S	Schagerl
D.Otto	Haag	V.Bach	Ricco Kühn	Meini Weston	Courtois
Dürk	BLESSING	Schilke	Paxman	Wenzel Meinl	King
S.W.Lewis	Lechner	Yamaha	Holtom	Willson	XO
Lukas	DTS	Conn	Getzen	Besson	
Juhász Zoltán	TAD	Alexander			

※太字はオリジナルブランドです。

DMC (ドルチエ・ミュージック・クラブ) 会員募集中!

入会金、年会費など無料で、特典がたくさんつきます。
ドルチエのコンサートも会員価格でお求めになれます。



ドルチエ楽器 管楽器アヴェニュー東京

www.dolce.co.jp

〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-13-12 西新宿昭和ビル8F
TEL.03-5909-1771 FAX.03-3345-1388
10:30am~7:00pm 木曜定休(木曜日が祝・祭日の場合、営業)
tokyo@dolce.co.jp



パウエル・フルート・ジャパン

〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-13-12 西新宿昭和ビル8F
TEL.03-5339-8383 FAX.03-5339-8384
10:30am~7:00pm 木曜定休(木曜日が祝・祭日の場合、営業)
flute@powell-japan.com

NONAKA MUSIC HOUSE

ノナカ・ミュージックハウスは、世界中の優れた楽器と、
その造り手の心をお届けする、野中貿易直営店です。



ノナカ・ミュージックハウス

木管・金管楽器専門フロア。

管楽器アクセサリーを扱い、クリニック、コンサートを数多く開催しています。

SAXOPHONE/CLARINET/FLUTE



TRUMPET/TROMBONE/HORN/EUPHONIUM/TUBA



東京都渋谷区道玄坂1-15-9

TEL 03-5458-1521

✉ www.nonaka.com/nonakamh/



CALENDAR
営業カレンダー



MAP
地図



NONAKA